

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 24122：革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ（文科省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 16 日（木） 13:25～13:55
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 12 階 共用 1208 特別会議室
- 3 聴取者：本席議員、奥村議員、相澤議員、青木議員
外部専門家 6 名（うち若手 2 名）
- 4 説明者：文部科学省 石井 康彦 ライフサイエンス課長
釜井 宏行 課長補佐
豊橋技術科学大学 榊 佳之 学長、東京大学 別府 輝彦 名誉教授、
東京大学 長野 哲雄 教授

5 施策概要

これまで得られた成果や基盤を活用し、大量かつ多面的なゲノム情報の統合解析により細胞・生命プログラムを解明するため、革新的な解析能力を持つシーケンス拠点、データ解析拠点、タンパク質解析技術開発拠点を重点的に整備する。タンパク質の解析に加え、遺伝子発現制御、シグナル伝達、代謝制御、細胞機能などについて従来なしえなかった大規模・多面的な解析手法を駆使し、細胞・生命プログラム解読に挑み、我が国のライフサイエンス全体に資する基盤を構築することを目的とする。また、タンパク質解析技術開発拠点を創薬等支援技術基盤プラットフォームとして広く研究者等が利用できるよう整備を行う。

6 質疑応答模様

【本席議員】

タンパクの構造解析やインフォマティシャンなどの人材育成についてはどのようなになっているか。

【文科省】

情報分野に関する人材養成については、いろいろな形で若手研究者に参加してもらうようにしている。例えば、セルイノベーションの先導研究の関係者により、実際の解析に関する講習会を開くなど、若手研究者の育成に努めている。

【外部専門家】

若手研究者の雇用についてはどう考えているか。

【文科省】

本プログラムの中では、任期付の雇用にならざるを得ない。大学の定員の中で、どれだけ終身雇用がどれだけできるかは、大学における難しい問題。また、政策的な観点からバイオインフォマティクス人材の安定確保について考えていきたい。

【外部専門家】

ポスドクを独り立ちできるようなプログラムにして頂きたい。

【外部専門家】

若手を永続的、安定的に雇えるようにして頂きたい。

【外部専門家】

ターゲットタンパク研究プログラムについて、出口目標はどのように設定しているのか。

【文科省】

「基本的な生命機能の解明」、「医学・薬学等への貢献」、「食品・環境等の産業応用」、この3つの分野についてターゲットとなるタンパク質を決めて、研究している。

以上